
編集後記

本誌が会員皆様の手元に届くのは、師走の忙しい頃と思います（執筆現在10月下旬）。本年も会員皆様のご指導・ご協力により充実した医会誌を作ることができたと思っています。

今春に本医会会長は、長きにわたり会長を務めてこられた山崎親雄先生から、秋澤忠男先生に交代されました。一部理事も入れ替わり、改めて透析医療の安全性向上に重点を置いた事業に取り組んでいきたいと考えています。会員の皆様には、来年も本年にも増して、医会へのご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

会員の皆様の中には、本誌「透析医のひとりごと」のファンもいらっしゃると思います。100論文になったら1冊の本にまとめたいと常々考えていましたが、300ページを超えたため、とりあえず61論文で本年6月に発刊致しました。その「あとがき」に1枚の絵（富士山を背景に普通列車と新幹線が行き交う場面：恩師 杉野信博先生が2012年のBrusselsで開催された日仏腎セミナーのシンポジウムで発表されたスライドの1枚を借用）を示しましたが、最近の若い透析医は黎明期の透析（普通列車）を知らず、初めから現在の斬新な透析（新幹線）が確立していたものと考えがちであります。

このエッセイは、透析療法黎明期にご苦労された先生方に、その思いをフランクに執筆していただいておりますので、ぜひ日常の忙しい合間にリラックスして一読していただきたいと思っています。

本号もCurrent Topics（6編）、医療制度・医療経済（3編）、医療安全対策（2編）、実態調査（3編）、学術論文（8編）等、いずれも傑出したユニークなものであり、明日の臨床に役立てていただければ幸いに思います。

改めて来年もよろしくお願い申し上げます。

広報委員長 久保和雄